

Factors Associated With Mental Health Outcomes Among Health Care Workers Exposed to Coronavirus Disease 2019

著者 Jianbo Lai, MSc et al、浙江医科大学精神科

中国では2002年から2003年にかけてSARSを経験して以来、感染症対策に巨額の予算を投じ体制づくりを行ってきました。また当時情報を隠匿し公開しなかったため人々はパニック、暴動まで起こしました。今回はかなり情報がオープンにされているように思えます。

JAMA, March23, 2020 に浙江医科大学精神科や武漢大学医学部精神科の医師たちによりCOVID-19に対処した中国34病院1,257人の医師、ナース達の精神状態を調べた論文がありました。

ポイントは次の2点です。

- ① COVID治療の医療者1,257人中、うつ50.4%、不安44.6%、不眠30.4%、苦悩71.5%。
- ② とくに地元出身の医療者で精神症状が多かった。

この論文では4つの精神状態を下記のようなスケールを使用して1月29日から2月3日まで調べています。

- ・鬱状態 (depression) : PHQ-9 (9項目)
- ・不安 (anxiety) : Generalized Anxiety Disorder scale (7項目)
- ・不眠 (insomnia) : Insomnia Severity Index (7項目)
- ・苦悩 (distress) : Impact of Event Scale-Revised (22項目)

際限なく増え続けるコロナ患者、圧倒的仕事量 (overwhelming workload)、PPE (personal protection equipment) の不足、治療薬の存在しないこと、サポート不足、大々的メディア報道などは医療者を精神的に追い詰めました。また家族、友人、同僚に感染させるかもしれない恐怖、また周囲からの危険視・汚名 (stigma)、可能なら仕事を忌避したい、辞職したいとの願いもあります。これらにより医療者は高度のストレス、不安、うつ状態に追い込まれました。

このスタディの対象は1257人のうち、医師39.2% (493人)、看護師60.8% (764人)です。勤務地は60.5%が武漢、20.8%が湖北省 (武漢が省都)、18.8%がそれ以外です。76.7%が女性です。41.5%が最前線でCOVID-19の診断、治療、ケアに携わりました。

結果は 50.4% (634 人) にうつ症状、44.6% (560 人) に不安、30.4% (427 人) に不眠、71.5% (899 人) に苦悩 (distress) が見られました。

また、うつ、不安、不眠、苦悩の全ての頻度は武漢出身者 > 武漢以外の湖北省出身者 > 湖北省以外の出身者の順になりました。

当、西伊豆健育会病院には中国出身の看護師が何人もいるので、尋ねたところ、中国全土から武漢に派遣されたのは ICU、CCU の看護師たちだとのことでした。中国の看護師教育は中学、または高校卒業後に 3 年間、大学卒業後に 4 年間看護学校へ通うのだそうで、資格は同じとのことでした。

2015 年 11 月 13 日のパリ多発テロの際、テロ発生の 1 時間後の 22 時 34 分に、white plan (plan blancs) が発動されパリ市内の全 40 病院がスタッフを招集、大量の外傷患者に対してベッドを用意しました。また予備 (reservoir) として複数の大学病院、パリ近郊の病院にもアラートを発動し患者受け入れ準備を開始しました。

[www.nishiizu.gr.jp/intro/conference/h28/conference-28\\_02.pdf](http://www.nishiizu.gr.jp/intro/conference/h28/conference-28_02.pdf)

(パリ多発テロに対する救急対応 The Lancet, December 19/26, 2015

西伊豆早朝カンファ)

小生が驚いたのは、同時に精神的サポートのセンターも立ち上げ精神科医 35 名、看護師、ボランティアもパリ中心部の Hotel Dieu に参集したことです。

さすが精神医学の本場、フランスだなあと感心しました。

このような時に最初から精神的サポートまで考慮するのは、なかなか思い至りません。

クライシスの時は、外傷、一般疾患だけでなく医療者の精神的サポートも考慮する必要があるのだなあと感じました。